

本殿

ここが鶴岡八幡宮で最も神聖な場所です。武士と日本国の守護神である八幡神とされる応神天皇が、その母である神功皇后および比売神と共に祀られています。本殿の建物は、本殿および拝殿と幣殿から成っており、江戸期（1603年-1867年）の武家に崇敬された神社の多くと同様の建築様式、流権現造の一つ屋根の下にそれらが纏まっています。建物を装飾する彫刻には、植物、動物、神話上の存在などが含まれ、そのうちの多くが、火や悪霊からの保護などの良縁を持つものでした。本殿へと続く楼門にかかった大きな扁額には、漢字で「八幡宮」の金文字が記されています。最初の文字「八」は、鳩が八幡神の使いとされていることから、二羽の鳩から成っています。本殿の西側の廻廊には、鶴岡八幡宮ゆかりの文書や武具、その他の歴史的遺物などが展示されている宝物殿があります。本殿と宝物殿の間には、応神天皇の忠臣であり、その長命により知られる竹内宿禰が、健康長寿の神として祀られている武内社があります。

かつて山の麓にあった本殿が火事により焼けた後、現在の場所である大臣山の中腹に1191年に再建されました。現在の建物は1828年に建てられ、国の重要文化財に指定されています。